1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0470200544
法人名	医療法人　社団　仁明会
事業所名	グループホーム　青葉
所在地 （電話番号）	宮城県石巻市門脇字一番谷地57番地の19 （電　話）0225-23-5868

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡４－２－８　テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成　20　年　12　月 16　日

【情報提供票より】（平成　20 年 11 月　1 日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成　15 年　8 月　1 日	
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計　9　人
職員数	8　人	常勤　8 人、非常勤 0　人、常勤換算　8　人

（2）建物概要

建物形態	○併設／単独	○新築／改築
建物構造	鉄筋　造り	
	1 階建ての　階　～　1 階部分	

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	16,500　円		その他の経費（月額）	22,500　円
敷　金	有（　円）		○無	
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（　円） ○無		有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	300　円	昼食	400　円
	夕食	400　円	おやつ	100　円
	または1日当たり　1，200　円			

（4）利用者の概要（　11月　1日現在）

利用者人数		9 名	男性　1 名	女性　8 名	
要介護1		3　名	要介護2	2　名	
要介護3		2　名	要介護4	2　名	
要介護5		0　名	要支援2	0　名	
年齢	平均	85 歳	最低　79 歳	最高　91 歳	

（5）協力医療機関

協力医療機関名	斎藤病院・デンタルクリニック斎藤

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームを運営する医療法人仁明会は、医療のみならず福祉、介護との関わりも地域の中心的役割を担っている。ホームと同地内に老人保健施設、デイケア、訪問看護ステーション等がある。このホームの特徴の一つは、医療関係のケアの綿密さが家族と職員に安心感をもたらしていることである。最近ホームとして力をそそいでいるのが、地域との連携である。町内の有力な人材を運営推進会議メンバーとして、ホームへの理解と協力を得てイベントの仲介をしていただいている。地域密着型のホームについては、法人幹部の理解も得ており、管理者も職員も一致してホームの目指すべき方向として認識している。貴重な社会資源の一つとして、災害時対策についても地域の力となれることを期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	**前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）** 前回の課題の内、理念については、職員全員で検討し、入居者の気持を表現して、「より自分らしく、楽しく、健康に暮らしたい」をスローガン的に掲示している。地域との関連については、運営推進会議の活用等で良くなっている。災害対策については、更に工夫していただきたい。 **今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）** 自己評価の項目に全職員が各々記入する際、多くの気付きがあったという（職員ヒヤリングより）管理者は地域との交流について、併設の老人保健施設の陰に隠れがちなことに気付き、事務長に相談し、ホーム独自で取り組むことを指導され、自信につながっている。
重点項目②	**運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）** 運営推進会議には、入居者代表、家族代表が参加している。メンバーである町内の有力者を通じ、地域の子供育成会、老人会との交流が実現し、夏祭り、餅つき大会などのイベントにつながっている。中学校、保育所との交流を含めて、まだまだやれる事があるとみえるので、地域の社会資源としての存在に期待したい。
重点項目③	**家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）** 毎月発行の「あおばだより」は写真が多く、手書きのコメントも親しみ易い。家族には「楽しそうで入居させてよかった。」と評価されている。家族会は年2回定期会合が開催されている。ホームでは意見、要望を気軽に出していただける雰囲気作りに心掛けている。献立及び栄養についてや、居室の冷暖房の調節などについて出されている。
重点項目④	**日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）** 町内会長は運営推進会議のメンバーでもある。中学校の運動会に招かれ、入居者がじゃんけんゲームに参加したり、中学生の体験学習も二校受け入れている。隣接する保育所の幼児をクリスマス会に招待し、プレゼント交換などをしている。散歩の際は、青葉神社までのコースが日課であり、車椅子の入居者もよく出掛ける。近所の人と会った時は互いに挨拶している。

2. 評価結果（詳細）

（ ▒ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホーム開設時の理念の4項目の中に「開かれたホーム」とあり、地域との関係性をうたっている。今年の理念検討では、具体的ケアのスローガンとして、「より自分らしく、楽しく、健康に暮らしたい」を入居者の思いとして一緒に作り上げ、入居者が筆書きしたものを掲示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「年を重ねる毎により自分らしく、楽しく暮らしたい」というスローガンは、入居者の思いを表現したもので、職員は日々のケアの中でことあるごとに思い起こし、実践することができている。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会長は運営推進会議のメンバーでもある。中学校の運動会に招かれ、入居者がジャンケンゲームに参加したり、中学校の体験学習も二校受け入れ、通学路にもなっているので、入学式、卒業式にはおめでとうの表示をしている。また隣接している保育所の幼児をホームのクリスマス会に招待し、プレゼント交換をしている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員がそれぞれ記入した。この過程で多くの気付きがあったという。（職員のヒヤリングから）特に地域との交流については、併設の老人保健施設の陰に隠れがちだったが、評価をきっかけに事務長からホーム独自の取り組みを進言され、地域密着のための方策を皆で工夫している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーは入居者代表、家族代表、町内会長、地域包括支援センター職員、老人保健施設事務長等であり、2か月毎に開催している。町内の行事や防災訓練などについて説明をし夏祭りや餅つき等の催しの相談をしている。子供育成会や老人会とのお付き合いは運営推進会議委員の仲介によるものである。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の主催する介護フェアやケアマネジャー研修会等に出席している。しかしホーム側から行政に対する提案、提言、情報の報告等の機会は少ない。	○	ホームの在る地域の中学校や保育園との交流、運営推進会議メンバー等を介しての地域住民との交流を進めている姿は、地域の社会資源としての将来を示すものである。ホームでは更に発展させたいとしている。その為にも行政への積極的な提言、提案を期待したい。
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会の頻度は比較的高く、遠方の家族も月に1度は面会に訪れる。その際暮らしぶりや健康について伝え、金銭出納の報告をしている。毎月発行の「あおばだより」は写真が多く、手書きのコメントも添えられ親しみ易い。家族アンケートにも「楽しそうで入居させてよかった」等とあり、もっともだと思った。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会があり年2回定期会合を開催している。その際ホームでは意見、要望を気軽に出していただけるように雰囲気作りを心掛けている。「居室のお花に水をやって」とか献立及び栄養について、居室の冷暖房の調節についてなど出されている。4月のお花見会、12月の餅つきには家族も参加している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員等の異動が入居者に与えるダメージについてはよく理解されている。法人内の異動などの際は以前入居者に馴染みの職員に戻ってもらうなど配慮している。産休などでの休職時は、法人内から協力を得ている。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修は、ほぼ1か月に1回を目途に実施され、本年度は既に8回を数えている。課題は「緊急時対応」「口腔ケアと誤嚥」「虐待と、身体拘束について」などである。職員のモチベーションを引き出すために、法人独自の考課制度で実績や成果の反映を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	NPO県グループホーム協議会に加入しており、同協会が主催する事例発表会で報告したこともある。地区部会では、職員の交換研修に参加し、食事会やパチンコ大会等の交流も行っている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居利用にあたっては、これまで担当のケアマネジャーや本人、家族と納得のいくまで話し合っている。ホームからも自宅へ訪問するが、必ずグループホームに来ていただき、入居者とお話しするなどしている。一人暮しの人はすんなりと入居されるケースが多いが、本人が入居を納得するまで暫く待ったこともある。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	特筆すべきは、月に1回隣接する施設の医師を講師とする勉強会である。11月26日のテーマは「長恨歌」「おくの細道」などで講師の解説に全員で朗読する。職員も参加している。この勉強会では入居者も職員も知識はほぼ同列である。そこにこの催しの意義があると考えさせられた。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「表現の不得手な人でも、仲の良い人とはコミュニケーションがとれているので、職員もその場に入れてもらって、話しを聞く」「こっちなの?あっちなの?と聞いて本人に選択してもらっている」（職員ヒヤリングから）それらで知り得た事柄は家族の面会時に得た情報と共に申し送りして全職員で共有している。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	日々の観察、ケアの実施状況等の申し送り記録に基づき、看護師も含め全職員で毎月カンファレンスを実施している。3か月毎に作成し、カンファレンスの際、計画作成者は職員の意見の引き出しや本人、家族の要望等の反映に努力している。作成したケアプランは家族に渡し同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の変更については、運営規程に明記し、家族等の了承を得ることとしている。日々の観察や医師の意見及び月に一回のカンファレンスでの検討の結果から必要と判断した場合は3か月の定期見直しを待たず、随時に変更している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームの母体は医療法人の病院であり、内科、歯科等入居者のかかりつけ医としており、、通院には職員が付き添い、ホームにおいても担当医の回診を受けている。入居者の帰宅、外泊の支援をしており、毎月外泊している入居者いる、お盆やお正月にも帰宅を定例としている人がいる。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携体制加算の指定を受けている。看護師は併設の老健から派遣されており、入居者一人ひとりの健康状況等の把握と、それに伴う医師との連携を緊密に図っている。職員による付き添いも行っており、他の診療機関の治療が必要な場合は、本人、家族の意向に添って受診している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームと協力医療機関との間で24時間体制が確保されている現状を基に、看取りへの指針を明らかにしている。①入居者、家族とホーム側との合意②ホーム側の看取り体制の確立③それまでの家族の意思確認の方法等である。ホームでは家族の希望するケアを「看取り」も視野にいれて行いたいとしている。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者への声掛けでは、同じ声掛けでも受け取る人によって誤解される場合がある。相手をよく知り、時、所に配慮するなどを心掛けている。個人情報については、入居者を身内と思ってつい気を許してしまうことなどに十分注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食の開始時間はそれぞれであり、入浴でもシャワー浴の人もいる。職員は常に入居者にとってどうすることが居心地が良いのかを考えている。入居者の仲良し同士は、余り話しをしなくても意思疎通が出来ている。それらのことから学び、職員は一方的なケアにおちいらないように注意している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材購入は職員と入居者の二人で毎日出掛けている。献立は入居者の希望も取り入れている。職員も一緒に食事を摂り、食材、味付を話題にしながら賑やかである。その時、食べたい品の希望も聞き、食後の後片付けは皆でやっている。献立のカロリー計算等は栄養士にチエックしてもらっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	その人の状態によりシャワー浴だったりするが、スタッフ間で話し合い入浴への支援を工夫している。また、職員はこの入浴支援を1対1のケアの時間として大切にしている。柚子湯、ばら湯など楽しめる入浴支援を心掛けている。ホームでは夜間の入浴希望者はいないとしているが、時折希望を募り、確かめていただきたい。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	車椅子でハンディモップを使っている人、カーテンの開け閉め、畑仕事の人とそれぞれに役割をもっている。財布からお金の出し入れができる人は、買い物も大きな楽しみである。職員は更に本人の以前の生活についてお聞きし、新しい楽しみの発見に努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日課としての外出は、青葉神社までの散歩である。車椅子でも近所への散歩を週に2～3日はしている。その際近所の人からはよく挨拶していただき、こちらからも言葉を交わしている。季節が良い時期には月1回「気晴らし観光」として1日がかりで買い物、外食などを楽しんでいる。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束に関する研修をうけており、「鍵をかける」という行為が身体拘束に通ずるということを理解している。日中は鍵を掛けず、徘徊が気になる人については、職員同士目配り、気配り、声掛けで対応し、同地区にある老人保健施設にも見守りをお願いしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	同じ地区内にある老人保健施設と共同で、夜間想定での避難訓練を消防署の立会いも得て実施している。その他ホーム独自としての地震対策の避難訓練、火災訓練を行っている。しかし災害時での地域住民との連携については不十分である。	○	ホーム独自に夜間想定での避難訓練を実施する際に、運営推進会議のメンバー等を通じて、町内会、消防署（或いは地区消防団）周辺学校等と緊密に連絡をとり、協力をお願いするなどして、実効性のある避難訓練を実施するように期待したい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同法人内老人保健施設の管理栄養士に定期的に献立をチエックしてもらっている。食事、水分も含めて摂取量を把握し、月に一回ホームでの定期回診での医師の診断にも注意し、体重測定も実施している。摂取量の低下や体重の減少がみられた時は、代替の一品を提供するなど配慮している。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に掲げられている理念は習字の得意な入居者が手書きしたものである。共用空間の装飾も入居者一人ひとりとの関連が分かるように工夫されており、親しみがもてる。リビングから、中学校の通学路が見え、入居者はそれぞれの決まった居場所でそれらを眺めている。臭気や空気のよどみはなく、室温や湿度も適切に管理されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた馴染みの物を持って来ていただくように家族にお願いしている。しかし見慣れた物があることでかえって不安になる方もいるとのことで、家族と相談し、できる限り本人に選んでもらっている。部屋の様子は馴染みの物であることがよくわかり、個性も感じられる。携帯電話を持っている人もいる。		